

南山大学大学院  
入学試験  
出題の意図および解答例

社会科学研究所  
総合政策学専攻

2026年度・夏季

NANZAN  
UNIVERSITY

## 目 次

### ◀博士前期課程▶

専門科目（環境政策領域） .....	1
外国語（英語） .....	2

### ◀博士後期課程▶

英語（国際政策領域） .....	4
------------------	---

### <出題の意図>

- (1) 日本における循環型社会の進展度合いを物質フローの図や各種指標の経年変化を基に具体的に説明を行うことができるかについて確認する。
- (2) 日本の循環型社会の進展状況を踏まえて、課題となる点について指摘し、その解決方法について説得的に提言をすることができるかを確認する。

### <解答例・評価のポイント>

- (1) 以下の点が含まれているかを確認した。
  - ・2000年度の投入は純物質投入量が2,134百万トンであり、その内訳は輸入が796百万トン(内訳は輸入製品48百万トン、輸入資源748百万トン)、国内資源が1,125百万トン、循環資源の利用量が213百万トンであった。加えて含水等が299百万トンであった。
  - ・2022年度の投入は純物質投入量が1,388百万トンであり、その内訳は輸入が696百万トン(内訳は輸入製品62百万トン、輸入資源634百万トン)、国内資源が466百万トン、循環資源の利用量が226百万トンであった。加えて含水等が248百万トンであった。
  - ・投入に関して2000年度と2022年度を比較すると、純物質投入量が2,134百万トンから1,388百万トンに減少しており、新たな資源を利用する量が大きく減少している。
  - ・2000年度の産出は輸出が120百万トン、蓄積純増が1,071百万トン、エネルギー消費及び工業プロセス排出が535百万トン、食料消費が97百万トン、自然還元が85百万トン、循環利用量が213百万トン、最終処分が56百万トン、減量化が241百万トンであった。
  - ・2022年度の産出は輸出が162百万トン、蓄積純増が401百万トン、エネルギー消費及び工業プロセス排出が447百万トン、食料消費が86百万トン、自然還元が76百万トン、循環利用量が226百万トン、最終処分が12百万トン、減量化が208百万トンであった。
  - ・産出に関して2000年度と2022年度を比較すると、輸出については120百万トンから160百万トンに増えているものの、蓄積純増が1,071百万トンから401百万トンに減少し、他の項目についても減少をしている。これは純物質投入量の減少によるものと言える。また、最終処分についても56百万トンから12百万トンに大きく減少しており、最終処分場への負荷を下げている。加えて、総物質投入量と循環利用量を比較すると、循環利用の割合が2022年度は増大していることが分かる。
  - ・純物質投入量の減少は、「一人当たり天然資源消費量」の減少、「再生可能資源および循環資源の投入割合」の増大、「入り口側の循環利用率」の増大と関連している。
  - ・最終処分量の減少は「出口側の循環利用率」の増大に関連している。
- (2) この設問では以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、受験者の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない。
  - ・専門用語を適切に用いた文章表現であるか。
  - ・的確に社会的課題を明示できているか。
  - ・明示した社会的課題それぞれについて説得的な解決策を提示できているか。

### <出題の意図>

本試験は、総合政策学専攻で学ぶために必要な英語運用能力を、次の観点から評価することを目的として出題された。

1. 都市の環境・社会政策に関する英文 (論説文) を読み、主要な主張や論理展開、根拠となるデータを正確に理解できるかを確認する。
2. 段落ごとの要点の把握や語彙の意味推測を通じて、アカデミックな英文読解力を測定する。
3. 賛否両論があり得る社会的テーマについて、自らの立場を明確に示し、課題文の内容を根拠として英語で論理的に意見を展開する力を確認する。

### <解答例・評価のポイント>

#### 第1問 語彙

設問 第4段落における「barrier」の最も適切な意味を選択しなさい。

解答 b) 障害

#### 第2問 内容と段落対応

設問 以下の内容が含まれている段落 (1~4) を答えなさい。

- (ア) 木はヒートアイランド現象を防ぐのに役立ちます。
- (イ) 都市緑地の資金は依然として不足しています。
- (ウ) 適切な木を選ばないと冷却効果が低下します。

解答

- (ア) 第1段落
- (イ) 第4段落
- (ウ) 第3段落

#### 第3問 真偽

設問

- A) ヒートアイランド現象により、アメリカの主要都市では夜間の気温が周辺農村部より平均で 8°F 高い。
- B) 世界銀行の報告によれば、現在の都市林業への投資額 (約 1.9 兆ドル) は、気候目標の達成に必要とされる金額のおよそ半分以下である。
- C) 屋根を白く塗装する施策は、都市部の冷却効果において樹木を植える施策よりも総合的に優れている。

解答

- A) F (偽)
- B) T (真)
- C) F (偽)

#### 第4問 英作文 (100~120語)

**設問** 「都市に木を植えることは、都市を涼しくする最も重要な方法の一つである」という見解について賛否を述べ、少なくとも2つの段落から論拠を挙げて、100~120語の英語で書く。参照箇所は [P.1] のように段落番号で示す。

#### 解答例 (100語)

I agree that planting trees is among the most important ways to cool cities. As [P.1] shows, urban trees block sunlight, release water vapor, and slow hot winds, which can keep summer air temperatures below 26°C in many cities. These cooling services save lives during heat waves and cut electricity use for air-conditioning. [P.2] adds that tree roots and soil also absorb stormwater, preventing flash floods during heavy rain, another climate-related risk. However, [P.3] reminds us that cooling effects differ by tree type and street design, and that extra shade is needed where concrete walls trap heat. Therefore, trees should be combined with other measures and supported by stronger funding [P.4].

#### 評価のポイント

- 見解への賛否が明確に示されていること (冒頭で agree / disagree を明示)。
- 少なくとも2つの段落 (例：[P.1], [P.3] など) を根拠として引用・参照していること。
- 課題文の内容を自分の言葉で要約・統合しており、丸写しに偏っていないこと。
- 意見 → 根拠 (複数) → 結論という論理的な流れになっていること。
- 接続詞や指示語を用いて、文と文のつながりが明確であること。

### ＜出題の意図＞

二題の英文和訳問題を出題した。一つは、J・M・ケインズによる経済学の古典「一般理論」の原著からであり、もう一つは開発国家理論分野で古典となりつつあるH・J・チャンによる「梯子を外せ」の原著からである。これらから出題した意図は、以下の二点である。

- ・本専攻・研究領域で学ぶ前提となる英語の読解力を確認すること。
- ・本専攻・研究領域で学ぶ前提となる専門知識の有無を確認すること。

### ＜評価のポイント＞

評価のポイントは、以下の三点である。

- ・一文一文の英語の構文が正確に把握できているか。
- ・和訳対象の文章全体の文脈（著者の主張）を正確に理解できているか。
- ・適切な訳語を選んでいるか。

和訳については、いずれも原著を全訳した和書が出版されているので、該当部分を参照されたい。

**発行：南山大学 入学センター**

**名古屋市昭和区山里町 18 番地**

Phone : (052)832-3119

E-mail : [nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp](mailto:nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp)

U R L : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>